

**コンゴ(民)月例報告
政治関連
2018年1月**

主な出来事

- 国民議会と上院は、2日から27日まで特別国会を開催した。
- 19日、シェ・オキトウンドウ副首相兼外務・地域統合相はパチカンを訪問し、ギャラガー外務長官と、2016年5月に署名した二国間枠組合意とコンゴ(民)の状況について協議を行った。
- 21日、カトリック非聖職者調整委員会(CLC)は、同日の日曜ミサ後に平和的デモ行進に参加するよう呼びかけ、キンシャサ市のノートルダム大聖堂及び聖ジョゼフ教会などでは、デモ行進を行おうとした信者及び市民を、治安部隊が催涙ガス弾等を用いて解散させた。MONUSCO 報道官によると、キンシャサでの死者は6名。
- 24日、コンゴ(民)政府はベルギーに対し、メゾン・シェンゲンの閉鎖と、同国の開発機関 ENABEL の閉鎖等を求める通達を行った。これは10日にベルギー側が、今後は、コンゴ(民)での政府援助を NGO 経由とすると発表したことから、コンゴ(民)側の反発を招いたもの。25日になり、ベルギー側は、NGO 等を通じて人道支援に充てられるのは、政府援助予算の4分の1であるとのコミュニケを発表した。
- 26日、カビラ大統領は、2012年以降初となる記者会見を大統領府で行い、2001年の大統領就任以降17年間の総括及び、コンゴ(民)の現状、選挙等に関して発言した。
- 26日、ブルンジ当局は、数日前からコンゴ(民)国軍(FARDC)がマイマイ・ヤクトウンバ掃討作戦を開始し、戦闘を逃れたコンゴ(民)人が、この3日間で約7,000名、隣国ブルンジに逃れていると発表した。
- 27日、南キブ州で、武装勢力による待ち伏せ攻撃を受け、MONUSCO 軍のパキスタン兵士1名が死亡、少なくとももう1名の PKO 兵士が負傷した。
- 31日、ナンガー独立国家選挙委員会(CENI)委員長は記者会見で、2018年末の選挙は、「最高レベルでの政権交代のために行われるべきである」と発言し、選挙人登録作業が終了し、46百万人の有権者登録が行われたと発表した。

1. 内政

(1)特別国会の開催

- ・国民議会と上院は、2日から27日まで特別国会を開催した。

(2)コンゴ(民)政府がベルギーにメゾン・シェンゲンの閉鎖とベルギー開発機関の活動停止を要求

- ・24日、コンゴ(民)政府は在コンゴ(民)ベルギー大に宛てた文書で、メゾン・シェンゲン(シェンゲン協定に加盟する17か国とノルウェーへの短期査証を発給する EU 領事館のようなもので、ベルギーが管理する)の閉鎖要求と、ベルギーが二国間協力を中止したことにより、ベルギーの新たな開発機関である ENABEL(CTB から名称変更)はもはや存在理由がないことから、ベルギー側に(閉鎖等の)決断を求める通達を行った。

(3)シェ・オキトウンドウ副首相兼外務・地域統合相が仏・英・米の代表と協議

- ・23日、シェ・オキトウンドウ副首相兼外務・地域統合相は、MONUSCO マンデートの更新及び選挙プロセスについて協議するため、国連安保理理事国である仏・英・米の代表と面会した。

(4) キンシャサ大学の学生が学費をめぐる抗議行動

・24-25日、キンシャサ大学 (UNIKIN) 内で、学生が学費をめぐる抗議行動を行い、治安部隊3名が重傷を負った。また、手榴弾を投げ返そうとした学生の手の中で手榴弾が爆発し、同学生は腕を切断する重傷を負った。学費を算出する際のドルレートは、従来1ドル920コンゴ・フランであったが、2017年にコンゴ・フランが大幅に下落し、現在は1ドル1600コンゴ・フランとなっている。今回の抗議行動で学生は、1ドル920コンゴ・フランでの支払いを求めた。

(5) ミナク大統領多数派(MP)から所属政党へのメッセージ

・25日、ミナク大統領多数派(MP)幹事長は与党 PPRD 本部を訪問し、今年12月23日に大統領選挙(及び国民議会選挙と地方議会選挙)を実施することを確言した。また、選挙に向けて、MP所属政党は準備し、すべての選挙において候補者をたてること、及び法定得票率(当選が認められるために必要な最小の得票率)に対する準備を求めた。同幹事長は、カビラ大統領の指示で、近いうちに実施される選挙の準備に関するメッセージを伝えるべく、すべての MP 所属政党本部を訪問しており、PPRD 本部へはその一環で訪問したもの。23日には AFDC、ARC、CNC、PDC、PA 等、25日には UNAFEC、BUREC、MSR 等を訪問した。

(6) カビラ大統領が5年ぶりの記者会見

・26日、カビラ大統領は、2012年以降初となる記者会見を大統領府で行い、2001年の大統領就任以降17年間を総括し、コンゴ(民)の現状、選挙等に関し発言した。なお、同記者会見は午後0時半から約2時間にわたって行われたが、テレビでの生放送はなく、午後3時頃から国营テレビ・ラジオ局(RTNC)が、録画映像を放映した。

(7) 野党の動向

故エチエンヌ・チセケディ UDPS 党首の追悼ミサ

・29日、UDPS はコミュニケで、昨年2月1日にブリュッセルで死去した故エチエンヌ・チセケディ党首(享年84歳)の1周年忌となる2月1日、キンシャサ市のノートルダム大聖堂において、追悼ミサを行うと発表した(予定どおり2月1日に実施)。追悼ミサに続き、同日午後にはリメテ地区の UDPS 党本部において、政治行事を行う。チセケディ党首の遺体は、これまでに数度、コンゴ(民)への帰国が発表されたが、当局及び、UDPS と家族の間で合意に至らず、実現していない。

(8) 独立国家選挙委員会(GENI)の動向

ア カサイ州の選挙人登録が終了

・31日、カサイ州の選挙人登録センターの全てが登録作業を終了した。GENI によると、同州での登録率は115%となった(31日付 ACP)。

イ 全国での選挙人登録の終了、46百万人が登録

・31日、ガーナの視察ミッションから戻ったナンガーGENI 委員長は記者会見で、2018年末の選挙は、「最高レベルでの政権交代のために行われるべきである」と発言し、選挙人登録作業が終了し、46百万人の有権者登録が行われたと発表した(31日付 AFP)

2. 外交

シェ・オキトゥンドゥ副首相兼外務・地域統合相のバチカン訪問

・19日、シェ・オキトゥンドゥ副首相兼外務・地域統合相はバチカンを訪問し、ギャラガー外務長官と、2016年5月に署名した二国間枠組合意とコンゴ(民)の状況を協議した。

3. 東部及び大湖地域情勢

(1)南キブ州から約7,000名のコンゴ人が隣国ブルンジに避難

・26日、ブルンジ当局は、数日前からコンゴ(民)国軍(FARDC)がマイマイ・ヤクトウンバ掃討作戦を開始し、戦闘を逃れたコンゴ(民)人が、この3日間で約7,000名、隣国ブルンジに逃れていると発表した(26日付 AFP)。

(2)南キブ州でパキスタン人 PKO 兵士1名が死亡

・27日、南キブ州で、武装勢力による待ち伏せ攻撃を受け、MONUSCO 軍のパキスタン人兵士1名が死亡、少なくとももう1名の PKO 兵士が負傷した。同州では、FARDC が民兵に対する作戦を展開している。

(3)北キブ州ゴマ市の元南スーダン兵士キャンプの緊張

・31日、北キブ州ゴマ市の元南スーダン兵士を收容するキャンプで、元兵士と MONUSCO の間で緊張が高まり、MONUSCO 警察がキャンプに対し催涙ガス弾を発射して事態を沈静化した。同キャンプには現在も約370名のマシャル派元兵士が收容されており、第三国への移送を求めている(31日付 AFP)。

4. その他

(1)カトリック非聖職者調整委員会が呼びかけたデモ行進で6名死亡(MONUSCO 発表)

・13日、カトリック非聖職者調整委員会(Comite Laic de Coordination: CLC)は、21日の日曜ミサ後に、再度、平和的デモ行進に参加するよう呼びかけた。

・21日、キンシャサ市のノートルダム大聖堂及び聖ジョゼフ教会などのカトリック教会では、日曜ミサ後にデモ行進を行おうとした信者及び市民を、治安部隊が催涙ガス弾等を用いて解散させた。

・MONUSCO 報道官によると、キンシャサでの死者は6名。全国での負傷者の合計は57名で、111件の逮捕が確認された。また、状況監視のために派遣した MONUSCO 要員への脅迫や暴行も発生した。一方、コンゴ(民)国家警察(PNC)報道官によると、キンシャサでの死者は2名で、9名の警察官が負傷した(うち2名は重傷)。

・22-23日、バチカン、ベルギー、米、英、仏、OIF、EU 等は、治安当局による暴力を非難するメッセージを出した。

(2)コンゴ・カトリック司教会議(CENCO)代表団がサス・ンゲソ大統領を訪問

・9日、コンゴ・カトリック司教会議(CENCO)のウテンビ議長とアンボンゴ副議長が率いる代表団は、大湖地域国際会議(ICGLR)議長を務めるサス・ンゲソ大統領を訪問した。

(3)ベルギーの経済協力の方式の変更

・10日、ベルギーは、コンゴ(民)での協力を NGO 経由とすると発表した。

・15日、コンゴ(民)政府は同決定に関し、「ベルギーの支援はコンゴ(民)の発展に寄与しないと批判した。

・25日、ベルギー外務省はコミュニケで、政府援助予算の4分の1を、人道支援と、コンゴ(民)の市民社会、大学及び科学機関との協力に向ける(政府援助のすべてを NGO 経由とするものではない)と発表した。